

【C年】

復活節第六主日

全能の神よ、罪人の制御できない心を治められる方はあなたのほかにはありません。どうかわたしたちに、主の戒めを喜び、主の約束を慕う恵みを与え、移り変わりの多いこの世において、常に心を変えることのない喜びに置くことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

聖書

朗読者 「聖書は使徒言行録第十四章八節から」

8 リストラに、足の不自由な男が座っていた。生まれつき足が悪く、まだ一度も歩いたことがなかった。9 この人が、パウロの話すのを聞いていた。パウロは彼を見つめ、い

やされるのにふさわしい信仰があるのを認め、10 「自分の足でまっすぐに立ちなさい」と大声で言った。すると、その人は躍り上がって歩きだした。11 群衆はパウロの行ったことを見て声を張り上げ、リカオニアの方言で、「神々が人間の姿をとって、わたしたちのところにお降りになった」と言った。12 そして、バルナバを「ゼウス」と呼び、またおもに話す者であることから、パウロを「ヘルメス」と呼んだ。13 町の外にあつたゼウスの神殿の祭司が、家の門の所まで雄牛数頭と花輪を運んで来て、群衆と一緒にやって二人にいけにえを献げようとした。14 使徒たち、すなわちバルナバとパウロはこのことを聞くと、服を裂いて群衆の中へ飛び込んで行き、叫んで15 言った。「皆さん、なぜ、こんなことをするのですか。わたしたちも、あなたがたと同じ人間にすぎません。あなたがたが、このような偶像を離れて、生ける神に立ち帰るように、わたしたちは福音を告げ知らせているのです。この神こそ、天と地と海と、そしてその中にあるすべてのものを造られた方です。16 神は過ぎ去った時代には、すべての国の人が思い思いの道を行くままにしておかれました。17 しかし、神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、食物を施して、あなたがたの心を喜びで満たしてくださっているのです。」18 こう言って、二人は、群衆が自分たちにいけにえを献げようとするのを、やっとやめさせることができた。

朗読者 「聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第六十七編

- 1 神よ、わたしたちを恵み祝し＝ み顔の光を照らして
ください
- 2 あなたの道が世界に知られ＝ 救いがすべての国に知られるように
- 3 神よ、諸国の民があなたをたたえ＝ すべての民があなたをたたえるように
- 4 すべての国は喜び歌え＝ あなたはみ民を正しく審き、地の諸国の民を導かれる
- 5 神よ、諸国の民があなたをたたえ＝ すべての民があなたをたたえるように
- 6 地は豊かに実り＝ 神はわたしたちを祝福された
- 7 神よ、わたしたちを祝福し＝ 地の果てに至るまで神を畏れさせてください

使徒書

朗読者 「使徒書はヨハネの黙示録第二一章二二節から」

22 わたしは、都の中に神殿を見なかった。全能者である神、主と小羊とが都の神殿だからである。23 この都には、それを照らす太陽も月も、必要でない。神の栄光が都を照らしており、小羊が都の明かりだからである。24 諸国の民は、都の光の中を歩き、地上の王たちは、自分たちの栄光を携えて、都に来る。25 都の門は、一日中決して閉ざされない。そこには夜がないからである。26 人々は、諸国の民の栄光と誉れとを携えて都に来る。27 しかし、汚れた者、忌まわしいことと偽りを行う者はだれ一人、決して都に入れない。小羊の命の書に名が書いてある者だけが入れられる。

1 天使はまた、神と小羊の玉座から流れ出て、水晶のように輝く命の水の川をわたしに見せた。2 川は、都の大通りの中央を流れ、その兩岸には命の木があつて、年に十二回実を結び、毎月実をみのらせる。そして、その木の葉は諸国の民の病を治す。3 もはや、呪われるものは何一つない。神と小羊の玉座が都にあつて、神の僕たちは神を礼拝し、4 御顔を仰ぎ見る。彼らの額には、神の名が記されている。5 もはや、夜はなく、ともし火の光も太陽の光も要らない。神である主が僕たちを照らし、彼らは世々限りなく統治するからである。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。
ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ヨハネによる福音書第十四章二十三節以下に記

された主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

23 イエスはこう答えて言われた。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。24 わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。25 わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。26 しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。27 わたしは、平和をあなたがたに残

し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。28 『わたしは去って行くが、また、あなたがたのところへ戻って来る』と言ったのをあなたがたは聞いた。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。父はわたしよりも偉大な方だからである。29 事が起こったときに、あなたがたが信じるようにと、今、その事の起こる前に話しておく。

司祭 「主に感謝」
会衆 「主に感謝します」